

2014.04.14 11:01:34



RD-180T/200T
 ◆◆◆◆◆
 PCM DATA RECORDER
 取扱説明書

80174078

目次

1	概要	1
2	2. 特長	2
4	2-1 記録時の注意	4
6	3. メモ	6
7	4. 外観と各部名称及び機能	7
7	4-1 外観	7
8	4-2 外観説明	8
9	4-2-1 TTPコントロールキーグループ	9
10	4-2-2 実行キーグループ	10
12	4-2-3 FUNCTIONキーグループ	12
13	4-2-4 エントリイキーグループ	13
13	4-2-5 CH SEL (モニタチャネルセレクト) と F1, F2 キー	13
15	4-3 テイストアレイ	15
17	5. 基本操作	17
18	5-1 基本操作	18
21	5-2 入力の接続	21
21	5-3 出力信号の接続	21
21	5-4 メモリバンクの記録, 再生	21
22	6. 操作方法	22
22	6-1 PARAMETERS 画面での設定	22
22	6-1-1 入力レンジ	22
22	6-1-2 出力レンジ	22
23	6-1-3 TITLE, MEMO の設定	23
25	6-1-4 波形, パーグラフの表示	25
27	6-2 SEARCH	27
27	6-2-1 Aカウンス	27
27	6-2-2 ID	27



40 8-2-7 外観図

39 8-2-6 CONTROL I/O (CNビツ番号、信号名称、入出力形式)

39 8-2-5 側面

38 8-2-4 LED部

38 8-2-3 スライツ SW

38 8-2-2 表示部

37 8-2-1 押し卸部

37 8-2 ER-42機能説明概要

37 8-1 リモートコントロールユニットの取付け、取り外し

37 8 リモートコントロールユニット

36 7 エラーリスト

35 6-6 消去

35 6-5-5 EVENT

35 6-5-4 E.SEARCH

35 6-5-3 E.MARK

34 6-5-2 CAL

34 6-5-1 P.LOCK(PANEL LOCK)

34 6-5 実行キーグループ

34 6-4-4 SP MONITOR

33 6-4-3 REC PAUSE TIMER

33 6-4-2 CAL MODE

33 6-4-1 MPX MODE

32 6-4 SYSTEM(システム)

31 6-3-3 P.SAVE MODE

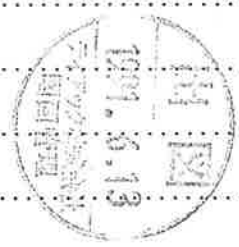
30 6-3-2 CLOCK SET

29 6-3-1 SELF TEST

28 6-3 MISC(MISCELLANEOUS)その他の機能

27 6-2-4 ID+CLOCK

27 6-2-3 ID+カウツク



9 GP-1B 41

9-1 概要 41

9-2 構成 41

9-3 フォンタ、ターミネータ、ハックの設定 42

10 12時間モード 44

10-1 概要 44

10-2 12時間モード設定 45

10-3 フォンタ 46

10-4 記録 47

10-5 再生 48

10-6 SEARCH 49

10-7 ID NO, EVENT, カウンタについて 50

10-8 フォンタ 51

10-9 CAL 51

10-10 仕様 52

11 保守 54

11-1 記録前のバックアップ 54

12 仕様 55

12-1 仕様 55

12-2 入力仕様 55

12-3 環境仕様 56

12-4 機能仕様 57

12-5 その他 58

12-6 外観図 58

12-7 標準付属品 59



90174079

使用時の諸注意

- 1. 型式及び標準付属品の御確認
製品が御希望の型式であることをお確かめ下さい。尚、標準付属品につきましては、本取扱説明書12-7項を御参照下さい。

2. 設置環境

本機は、温度・湿度・塵・振動・気圧・電磁界・雰囲気等に注意してお使い下さい。
特に以下の項目については厳重にお守り下さい。

- 2-1) 低温場所に置いてあったレコーダやテープを高温暖場所へ移動した場合は、機器又はテープに結露する場合がありますので、テープを入れる前に電源スイッチONにして30分以上通電するか、結露していない事を確認してからテープを入れて下さい。

結露した状態でテープを入れますと、ロータリヘッドにテープを巻込み、故障の原因になります。(一般には仕様範囲内の湿度であっても、1時間当たり15°C以上の温度変化があると結露する場合があります。)

- 注) 結露センサーが働いた場合、テープ動作LEDが全て点灯しテープ動作が禁止となります。
2-2) レコーダ電源スイッチを切る場合は必ずテープを取り出して下さい。テープを入れたままにしておいて電源スイッチを切ると、テープを取り出せず、そのまま結露すると再び電源スイッチを入れた時、ロータリヘッドにテープを巻込み、故障の原因となります。
- 万一、ロータリヘッドにテープを巻込んでしまった場合は、別項1. 保守の項を良くお読みになり対処して下さい。

3. 入出力端子について

本機の入出力端子は不平衡です。付属BNCコネクタケーブルを継いだ場合、出力インピーダンスは75Ω、出力電流は±10mA Max (20Ω負荷時)です。
出力端子へ信号を入力すると、出力増幅器が壊れる場合がありますので御注意下さい。



4. 電源

本機の電源の入力は、AC90V ~ 250V, DC11V ~ 30V となっています。付属以外の電源ケーブルを御使用になる場合は、充分に抵抗の小さいものをお使い下さい。本機の電源ユニットは、スイッチング方式を使用していますので電源投入時、大電流が流れますので十分に余裕のある電源を御利用下さい。

5. カセットテープについて

5-1. 使用テープについて

弊社は、日立マクセル (株) 製 DM120 または DM60 を RD シリーズの使用テープとして指定しております。指定テープ以外を御使用の場合、貴重な計測テープが記録・再生できないばかりか、本体に思わぬトラブルを発生させる恐れがあります。

5-2. テープの挿入について

カセットを開けて、カセットテープを挿入する時は一番奥迄押し込んでから、カセットを閉じて下さい。また、カセットテープが入った状態にて EJECT し、再びそのままカセットを閉じる際にも、必ず再度カセットテープを一番奥迄押し込んでから、カセットを閉じて下さい。

5-3. テープの記録と保管について

テープの巻始めや巻終わり、特に巻終わりの約2分間は、テープとリールの接続部の段差がテープに影響を与え、記録テープの品質が悪化する場合があります。このため重要なテープは、テープの巻始めすくや、巻終わりの数分間は避けて記録する事をおすすめします。また、テープを保管する時は、テープを巻戻して保管して下さい。

6. 別売アクセサリの取り付け

別売アクセサリを取り付ける場合は、本体のチェックを済ませてから取り付けて下さい。MB-400 メモリ・ボード, ER-42 リモートコントロールユニット等 取り付け方法は各々の取扱説明書等に従って下さい。



90174080

1 概要

本フータレコータは、すでに発表しておりますRD-100Tシリーズと同様にDAT技術を採用した新方式のフータレコータです。

フータレコータをデジタル化し磁気フータに記録します。再生時はデジタルフータをフータから再生しフータ化し出力します。このため70dBをこえるSN比を得る事ができ、又無視し得るほどの低い歪率と、チャンネル間位相差など高品質の記録、再生が可能です。

2チャンネル(帯域20KHz)からRD-180Tでは最大8チャンネル(帯域5KHz)、RD-200Tでは最大16チャンネル(帯域2.5KHz)の入出力を設定でき幅広い記録対象に対応できます。また各種のIDコードを記録できますのでフータの検索が便利になりフータの整理が容易です。

本機は大型ELディスプレイによる対話式の操作に加え、入力監視用のバーグラフや波形モニタ、各種パラメータの表示、エラーの表示などが可能です。

また、標準装備のGP-IBインタフェースを使用することにより外部からのコンピュータコントロールが可能です。更にオプションのメモリアポートを実装することによりデジタルフータを転送することが可能です。

このほかオプションの12時間メモリアポート機能を使用すれば、最大12時間連続に記録することができ、メモリアポートも使用します。

90174081

2 特長

- 1) 高データ品質
 多重化PCM記録方式でSN比70dB、歪率0.05%、チャネル間位相差5度(同一帯域)等、従来
 のアナログ記録方式のデータレコーダの性能を大幅に上回っています。
- 2) 多チャネル、広帯域
 2チャネルからRD-180Tでは最大8チャネルまで、RD-200Tでは最大16チャネルまでチャネ
 ル数が選択できます。周波数帯域は2チャネルの時DC~20KHz、8チャネルの時
 DC~5KHz、16チャネルの時DC~2.5KHzです。
- 3) マルチバンド
 異なる周波数帯域を設定し同時に記録、再生する事ができます。このため振動と騒音と
 いうような異なる帯域の信号を同時に記録、再生ができてチャネル数を有効に活用できま
 す。
- 4) 小型軽量
 外形寸法が約440W×150H×270D(mm)とコンパクトで重量はRD-180Tでは約12.5kg、
 RD-200Tでは約13kgと軽量であるため、フィールドユースにも充分対応できます。
- 5) AC/DC両用電源
 AC90V~250V、DC11V~30VのAC/DC両用電源を標準装備しています。
- 6) 大型ELディスプレイ表示
 ディスプレイには視認性の高い大型ELディスプレイを採用しています。ピークホールド
 機能のある全チャネルバーグラフや任意の2チャネルの波形表示、テープ上のIDテープの
 表示等が可能です。また対話式操作により、本機が持っている多くの有効な機能を簡便
 に使えます。
- 7) 高速サーチ
 ID番号、カウント等のサーチが最大200倍の高速で行う事ができます。
- 8) 記録設定条件の記録
 テータチャネルとは別にタイムコード(カレンダ時計)、入力レンジ、TITLE(最大10キヤ
 クタ)、MEMO(最大50キヤクタ)を記録再生できます。これにより記録時の設定条件を
 詳細にテープ上に残し再生時に確認することができます。



オフショアの12時間モード機能(LP-200)はメモリボード(MB-400)を装着して、12時間連続記録を可能にします。12時間モードの中には3H, 6H, 12Hの3つのモードがあり、最大1:4の時間軸変換が可能です。

14) 12時間モード

但しデジタルオシロスコープとの互換はありません。
 す(一部モード情報を除く)。GP-300使用時も一部動作しない機能があります。
 100T)で、および8チャンネルモードで記録されたデータはRD-111T(RD-110T)で再生できま
 またRD-180T/RD-200Tの2または4チャンネルのモードで記録されたデータはRD-101T(RD-
 RD-100T)シリーズで記録されたデータはRD-180T/RD-200Tで再生できます。

13) RD-100Tシリーズとのデータ互換性

動作の他、ID番号の表示、カウンタの表示ができます。
 オフショアのリモートコントロールユニット(ER-42)はデータ動作コントロール、EVENT

12) リモートコントロール

理することができます。
 データに記録されたデータをメモリに取りこみ、GP-IBによってコンピュータへ送り、処
 が可能になります。またオフショアの6メガバイトメモリボード(MB-400)を装備すれば、
 GP-IBインタフェース(AR-509)を標準装備していますので、コンピュータによる自動計測

11) GP-IBインタフェースとメモリ

追加記録がスレーブに行えます。
 すでに記録されたデータの記録部分の終端を高速でサーチするエンパサーチ機能により

10) エンパサーチ

す。
 に+1ずつ更新されます。ID番号は01から99で、99の次は00が記録され順次更新されま
 番号が自動記録されます。ID番号は記録のスタートのたびまたはEVENTキーを押すたび
 データチャンネルとは別にID番号専用の記録再生ができます。記録データの認識としてID



9) データ番号(ID番号)の記録

90174082

2.1 記録時の注意

1 テープはBOTから、記録部の切れ目がない様に記録してください(図1参照)

a) AカウンタはBOTからの経過(累積)時間を表示するもので、途中に無記録部分がある

と表示しなくなります。

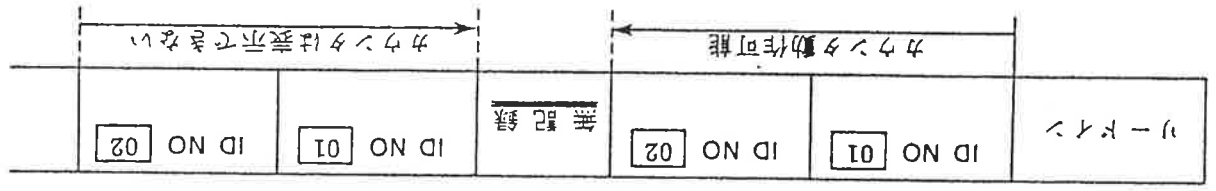
b) 残量表示はAカウンタが表示されている時のみ表示しますので、やはり途中に無記録部

分があると表示しなくなります。

c) ID NOはBOTから数秒間のリープイン後に01から順に増加していきますが、途中に無

記録部分があるとそこからID NOは再度01より始まります。

BOT



< 図 1 >

注) 12時間モードでは必ずAカウンタが表示できるところで使用して下さい。詳細は10-3項を参照して下さい。

2 BOTからの記録部の切れ目がない記録をする為に(図2参照)

a) 一度記録したテープの後に続けて記録をする時にはENDサーチを使用します。前回の

記録の最後部を見つけますのでそこから記録を行なえば切れ目のない記録となります

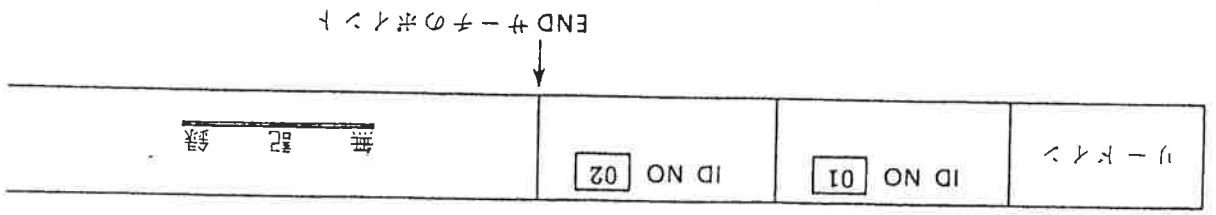
(但し最後部の1~2秒間はオーバーラップして記録されます)。

b) 記録後EJECTしそのテープをそのまま再びセットして記録開始する時にも記録部分が

途切れなく記録できるように、記録ボースにするとテープが自動的に若干戻り、記録待

ち状態になります。

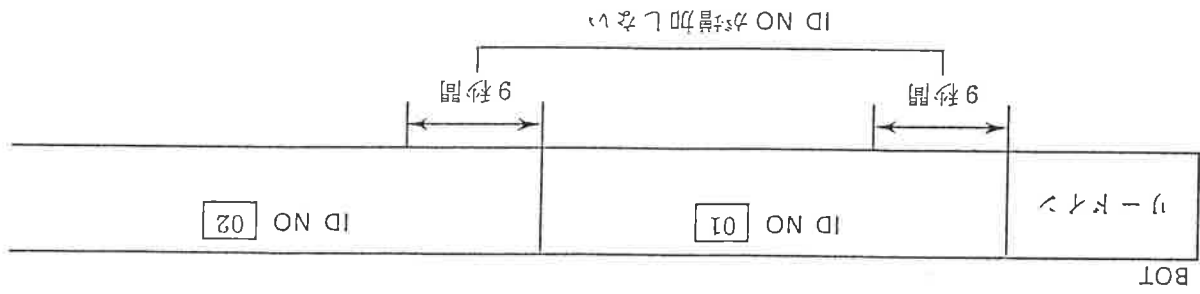
BOT



< 図 2 >

注) 12時間モードのID NO. は動作が上記と異なり、詳細は10-7項を参照して下さい。

< 図 4 >



には ID NO は増加しせん。
 また、記録開始後 9 秒以内に記録停止をして再び記録を始めても 2 回目の記録開始時
 しても無視されます。
 かし、9 秒以内に EVENT キーを押しても ID NO の増加は禁止となり、EVENT キーは押
 記録開始時又は、記録中に EVENT キーが押された時に ID NO は 1 ずつ増加します。し

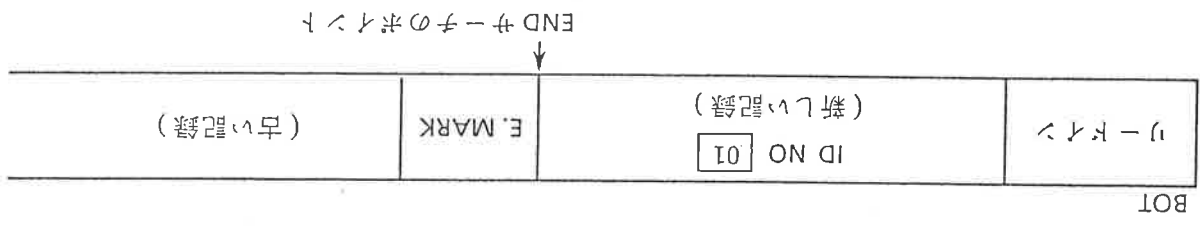
c) ID NO は 9 秒以上連続記録しないと変更できません。

- BB リーン部
- AA 無記録部
- EE E.MARK 部

b) ID NO は数値以外に次の様な表示をすることがあります。
 但し、途中に無記録部分があるとそこから再び ID NO は 01 より始まります。
 a) ID NO は BOT から数秒間の リーン 後に 01 から順に増加してゆきます。

4 ID NO について (図 4 参照)

< 図 3 >



a) BOT から記録を行うときには、NEWモードと同様に行いますが、新しい記録が古い記
 録より短いときには、新しい記録の最後に E.MARK (END ID) を記録して下さい。
 ENDサーチを行うとこの E.MARK をサーチして止まります。
 次の記録をここから記録を行うと、E.MARK の上に記録をしていくので E.MARK は消
 えて新しい記録となります。



3 使用済みモードの上に新しい記録を行う時 (図 3 参照)

90174084

90174085

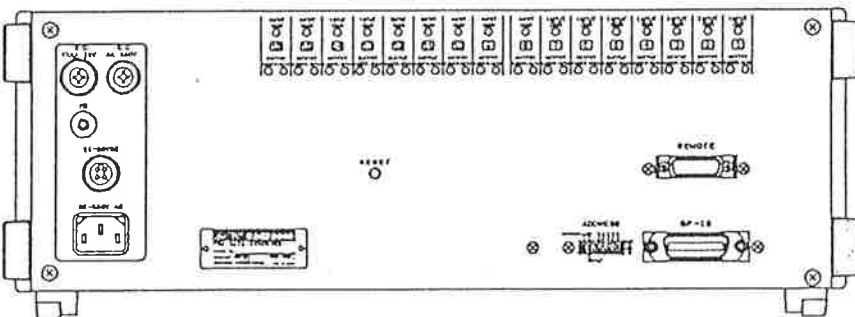
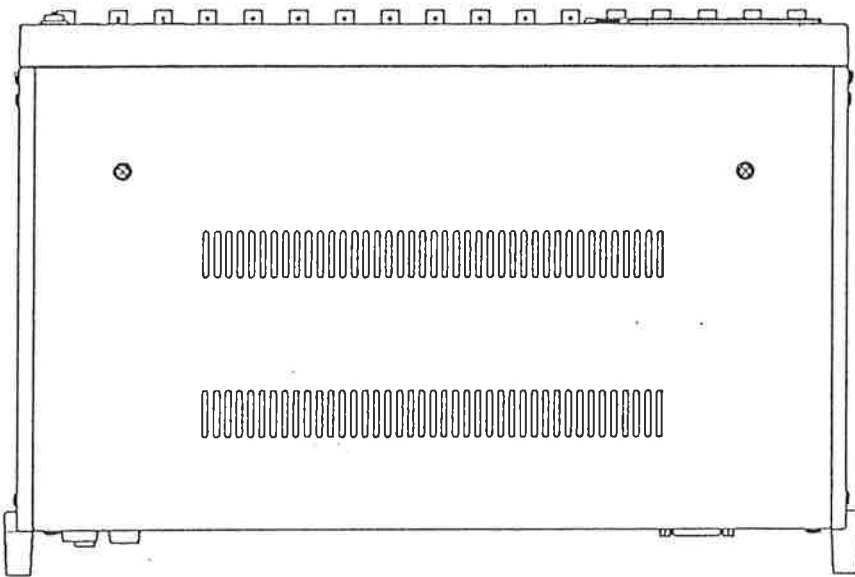
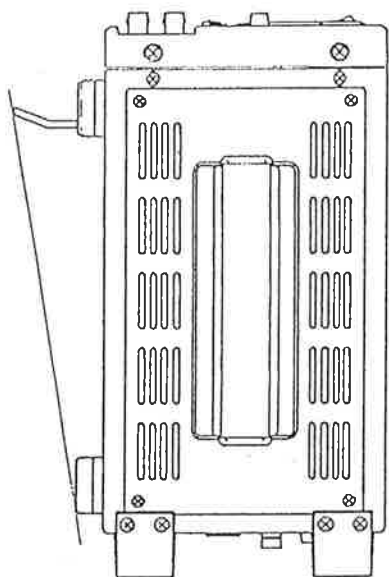
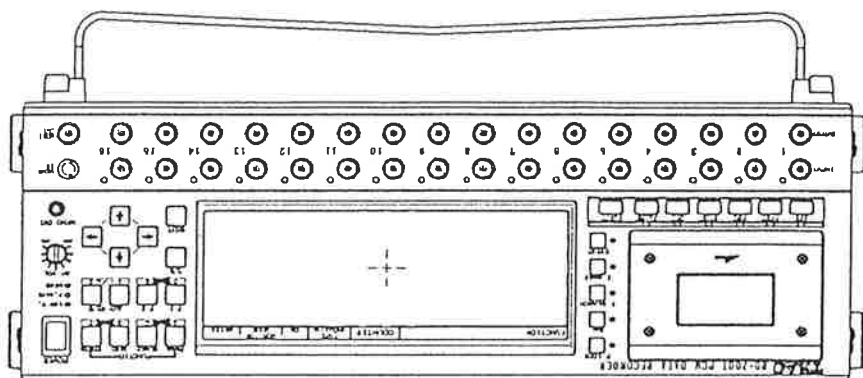
3 電源を入れる前の注意

製品が御希望のものであるかをお確かめください。クセサリにつきましては本取扱説明書の末尾の標準付属品の項に記載しております。また充分な品質管理を行っておりますが製品の御受取後最初に外觀上異常のないことをお確かめください。もし異常が発見された場合は恐れ入りますが御面倒でも速やかに弊社の営業またはサービスへ御一報ください。

本機の電源は仕様の項目に記載しているとおりますが、それ以外の電源を投入すると破損する可能性があります。また実効値は規格内でも大きなノイズが乗らないよう御注意下さい。本機はスイッチング電源を使用していますので電源投入時には大きな電流(瞬時的に約30A程度)が流れます。

****電源をOFFにする前に必ずケーブルを取り出してください。**** ケーブルが長い間ローディング状態になっているとロータリヘッドにケーブルが張り付くことがあります、そのまま電源スイッチをONするとロータリヘッドにケーブルが巻きつきヘッドやケーブルに思わぬ損傷を受けることがあります。

本機は温度、湿度、塵、振動、気圧、電磁界、雰囲気等の使用環境に注意してお使い下さい。特に本体が冷えている場合、急に暖かい部屋で使用を開始するとドラムやケーブルに結露する事がありますのでケーブルを装着する前に電源スイッチをONにし、30分以上通電して下さい(一般的に仕様範囲内の湿度であっても、1時間あたり15度以上の温度変化がある本体を周囲の湿度になじませるとともに、結露のない事をお確かめのケーブルを装着して下さい)と結露の危険があります)。

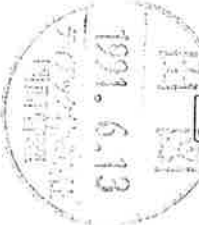
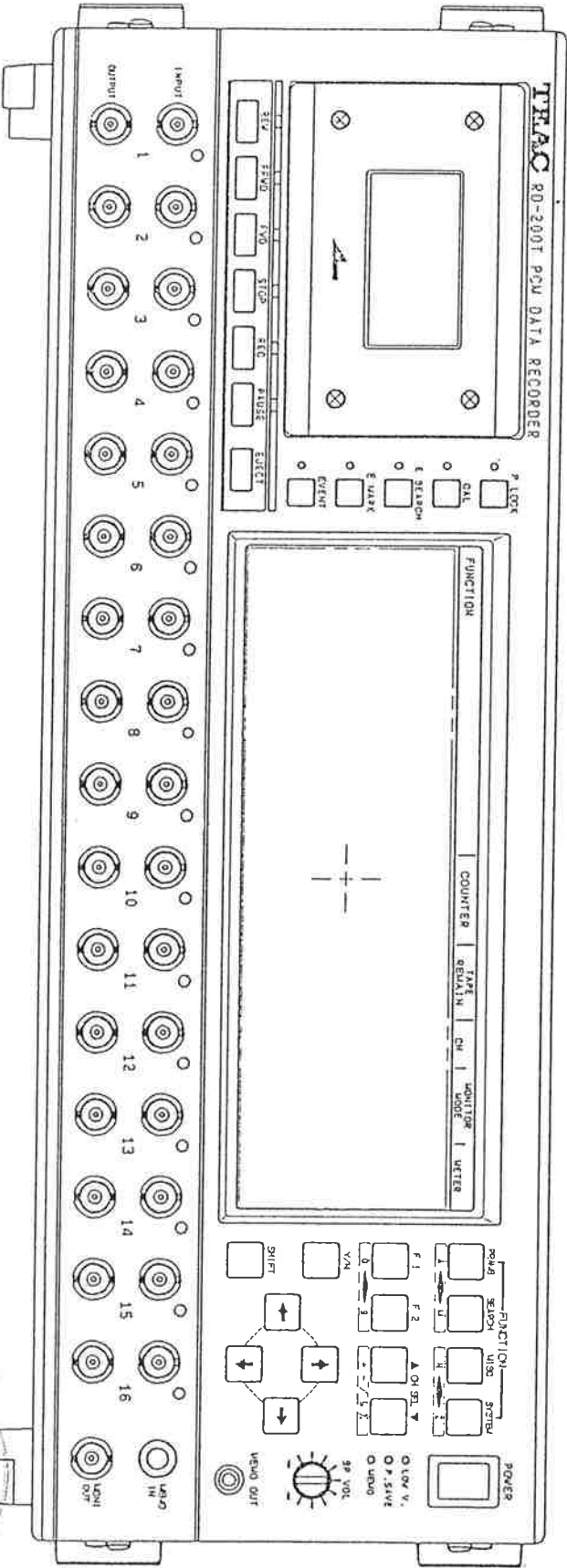


4 外觀と各部名称の説明
4-1 外觀

90174086

90174087

4-2 外觀說明



注) 12時間モードではFWD, STOP, REC, PAUSEの動作が異なります。詳細は10-4, 10-5項を参照して下さい。

ます。

EJECT(カセット開) REC FWDモード中又はREC PAUSEモード時以外の時にEJECTキーを1回押すとカセットが開き、テープの装着又は取り出しが可能になります。

PAUSE(一時停止) RECモード中またはFWDモード時にPAUSEキーを押すとそのモードで一時停止し、再びFWDキーを押すと一時停止が解除されます。

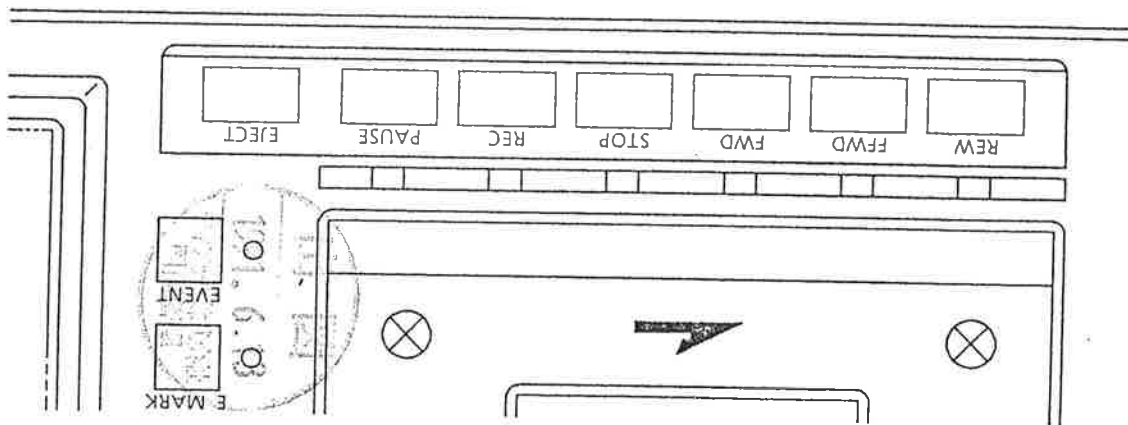
REC(記録) STOP時RECキーを押すとRECとPAUSEの表示灯が点灯して記録準備完了となり、その後FWDキーを押すと記録を開始します。

STOP(停止) REC, REC FWD, REW, F.FWD等のモード中にSTOPキーを押すとこれ等のモードが解除されて停止します。

FWD(再生) FWDキーを押すとテープは順方向へ走行し再生動作を行います。REC PAUSEモード時にFWDキーを押すとREC FWDモードとなり、記録が始まります。

F.FWD(早送り) F.FWDキーを押すとテープは早送りされます。REC FWDモードまたはREC PAUSEモード時には受け付けませんので一旦STOPモードを経由する必要があります。

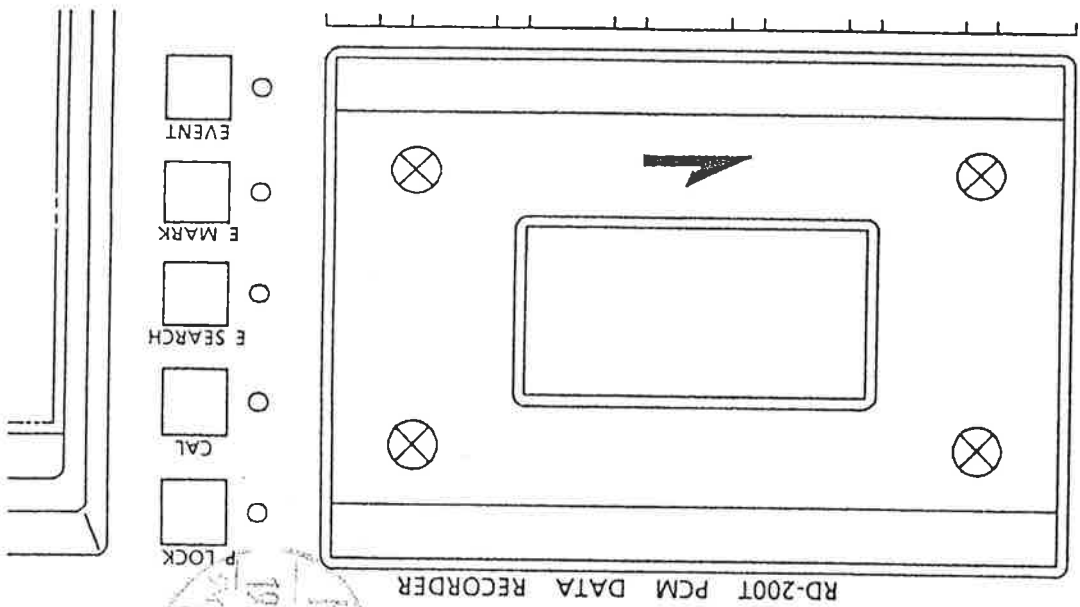
REW(巻戻し) REWキーを押すとテープは巻戻されます。REC FWDモードまたはREC PAUSEモード時には受け付けませんので一旦STOPモードを経由する必要があります。



4-2-1 TTPコントロールキーグループ

4-2-2 実行キーグループ

本機に備わっている機能の一部や、SYSTEM(後述)で設定された機能を実行するためのキーです。



P.LOCK(パネルロック)

このキーは、設定条件がわかり変わってしまうことのないよう各キーの機能をロックするのためのものです。パネルロックされると、電源スイッチとP.LOCKキー以外のキーは全てロックされます。ロックする場合はP.LOCKキーを3秒間押し続けます。LEDが点滅しロックが完了すると連続点灯します。解除をする場合も3秒間押し続けます。LEDが点滅し解除が完了すると消灯します。

CAL(キヤリブレーション)

このキーを押すと本機のCAL信号が発生します。記録可能なテープを装着し、REC PAUSEの状態またはREC FWDの状態になっていれば、信号が発生しますので、パークラフで確認できます。

CAL信号はタミ一信号として使用でき、その設定はSYSTEMで行います。

CAL信号はAC±0/AUTO (AC50%(1KHz)、DC+50%、DC-50%、0Vの4種類とこれらを組み合わせて各約1秒ずつ連続で発生するAUTO)のどれかを一つを選択できます。

注) AC CALの周波数は1KHzです。12時間モードの1KHz以下の帯域では、AC CALをONしても出力が正常に出ません。

E.SEARCH(エンスーチ)

このキーを押すとテープを高速で巻戻しBOTを検出すると次にFWD方向へ高速で進み、BOTから見て記録部の最後またはBOTから一番近いE.MARKをさがしSTOPします。続いて次にここでREC FWDモードにすると、E.MARKのあるときはE.MARKの先頭から記録が始まり、そのE.MARKは消え、E.MARKのない時には前の記録の終りの約1秒手前のテープの上から次のテープが記録されますので、テープ上途切れのない記録が可能です。

E.MARK(エフマーク)

記録済みのテープの上に新しい記録を行った時、その記録の最後をサーチする為に、E.MARKを用います。詳細は5頁を参照して下さい。このキーを押すと、記録の「最後である印(E.MARK)」がテープ上に書き込まれます。

E.MARKはテープの書かれる部分とは別の部分に書かれますので、テープへの影響はありません。またE.MARKの後ろにテープが記録されていてもテープ上に何ら影響を受けません。REC PAUSE状態にしてE.MARKキーを押すことにより、E.MARKの書き込みが可能です。但し無記録部から、またはEVENT LEDの点灯しているところ(IDの変化点から9秒間のテープ位置)からはE.MARKは記録できません。

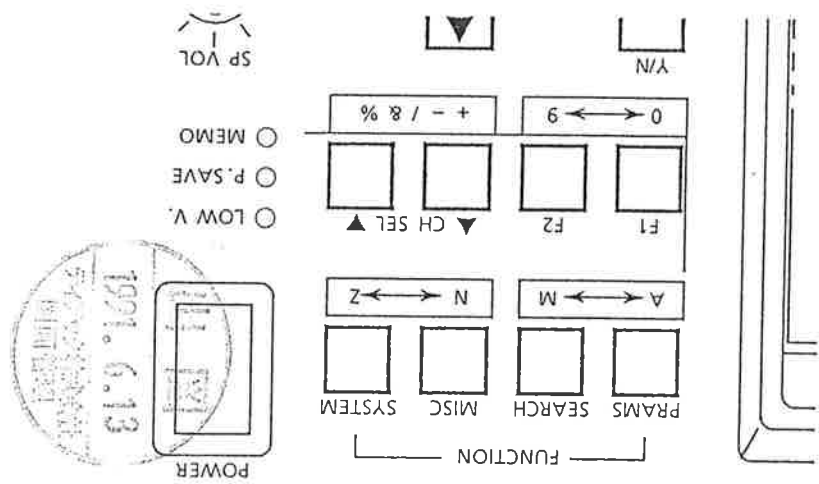
EVENT(イベント)

RECモード中にこのキーを押すと、記録中のID番号を一つ増加させ記録し続けます。但し1回のIDを記録するには9秒間必要であり、その間ID NOの表示は点滅しEVENTのLEDは点灯します。また点滅している間はこのキーを押しても受け付けません。
 (注) ID番号を高速サーチに利用する場合は連続約1分間の記録長が必要です。
 12時間モードでは、EVENTの取り扱いが若干異なります。

詳細は10-7項を参照して下さい。



90174090



PRAMS(定数の設定)

このキーを押すと画面はPRAMSモードになり、キヤラクタ入出力レンジ、TITLE、MEMO等のパラメータの設定が可能になります。TITLEは10キヤラクタ、MEMOは50キヤラクタまで記録する事ができ、再生時には記録時の入出力レンジ、TITLE、MEMO等が表示されます。

SEARCH(検索)

このキーを押すと画面はSEARCHモードになり、テーブル上に記録されている検索条項等のパラメータの設定が可能になります。

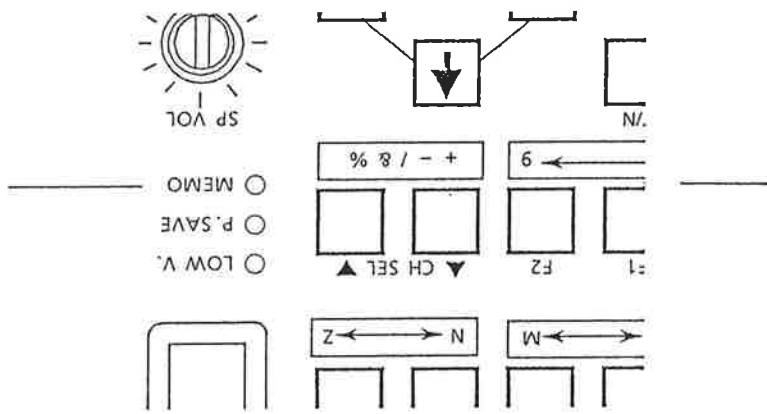
MISC(その他の機能)

このキーを押すと画面はMISCモードとなり、SELF TEST(自己診断)機能、CLOCK SET(時刻合わせ)、P SAVE MODE(省電力モード)等の機能の設定が可能になります。

SYSTEM(システム機能)

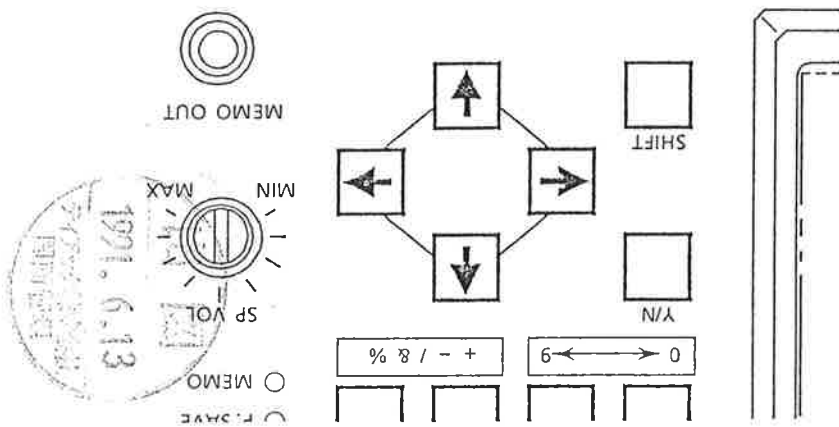
このキーを押すと画面はSYSTEMモードになりMPX MODE、CAL MODE、REC PAUSE TIME、SP MONITOR、LONG PLAY MODE 等項目の設定が可能です。本機の使い勝手を選べます。本取扱説明書の操作の項目を参照して下さい。

▲キーでチャネル番号が大きくなり▲キーで小さくなります。またF1, F2キーは画面で定義されるキーです。
 TITLE(最大10キヤラクタ), MEMO(最大50キヤラクタ)はSHIFTキーの併用により設定でき



4-2-5 CH SEL(モニタチャネルセレクタキー)とF1, F2キー

↑キー、↓キー、←キー、→キーがあり、カーソルを上、下、左、右へ動かします。またSHIFTキーを押しながら↑キー、↓キーを押すことにより数値を増減できます。SHIFTキー、Y/Nキーは画面上で定義されます。



4-2-4 エントリキーグループ

表示とチャンネルの選択はチャンネルセレクタキーで行います。監視中のモニタチャンネル番号はバーグラフの左のチャンネル番号にも矢印で示します。

MONITOR 監視しているチャンネル番号(CH)と記録または再生で決まるモード(REC PAUSEまたはREC FWD時にはSOURCEが表示されその他の時はTAPEが表示されます。)

TAPE REMAIN BOTからテープが連続で記録されている時にテープの残量が2桁の時間と2桁の分(00:00)で表示されます。

COUNTER BOTからテープが連続で記録されている時にBOTからの連続時間として3桁の分と2桁の秒(00'00")の時間で表示されます。

L/P MODE 12時間モード機能オフシヨクが設定された時に、SYSTEMの設定と再生されたTAPEの内容を示します。

FUNCTION FUNCTIONキーグループの中から選択された画面が表示されるそのFUNCTION名が表示されます。

(注) RD-180Tでは、CH9~CH16は表示されません。詳細は6-1-4項を参照して下さい。

FUNCTION	L/PMODE	COUNTER	TAPE	REMAIN	CH MODE	MONITOR
PRAMS:	000'17"	02:00'	L2	TAPE	48%	
CH 1	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 2	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 3	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 4	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 5	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 6	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 7	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 8	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 9	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 10	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 11	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 12	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 13	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 14	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 15	OFF	2.5	KH	2 V		
CH 16	OFF	2.5	KH	2 V		
PK HOLD [Y/N] / GRAPH [SHIFT] [Y/N] / DUP [SHIFT] [Y/N]						
ID SET IDNO. 02 P00'01"						
CLOCK : 90.01.01 13:38'54"						
TITLE : TEST 1						
MEMO :						
SYSTEM LIST						
MPX 2 / CAL AC / PAUSE ON						
ED 000						

ID SET この部分には、FUNCTIONがPRAMSモードのとき次の表示がされます。

REC、REC PAUSE又はREC、REC PAUSE後のSTOPの場合、現在記録中のID番号 (ID NO)と、記録が始まってからの時間(P TIME)が表示されます。
上記以外の場合テープから再生されたID NO、P TIMEが表示されません。
但し、テープからの情報なので設定はできません。
ID NOについての詳細は、5頁を参照して下さい。
なおテープを装着しない場合に、ID NOがAAの点滅となることがあります。

注) 12時間モードでは、P TIMEは表示されません。ID NO等の12時間モードでの扱い
はこの表示項目
CLOCK 記録時は本機で設定されている時刻が表示され、再生中はテープ上の時刻が表
示され、RECキーが押されるまで表示が保持されます。

TITLE, MEMO TITLEはテープに記録する実験の名前など(最大10キヤラクタ)のタイトルを表示
します。再生中はテープに記録されたタイトルを表示します。MEMOはテープ
に記録する実験条件など(最大50キヤラクタ)のメモを表示します。再生中は
テープに記録されたメモが表示され一旦RECキーが押されると設定してあるメ
モが表示されます。

SYSTEM LIST 画面の右下に常に表示されており、本機の設定条件がいつでも確認できま
す。そのほか、画面の一番下の行には左からエントリキーの定義、エラーコード
(ERR 000)、エラーフラグ[1秒間当たりのECCの結果起きたエラーの数(ED 000)]
が表示されます。エラーコードの内容については、7項のエラーコードリストを
参照して下さい。

この部分には、FUNCTIONがPRAMSモードのとき次の表示がされます。

5 操作方法
5-1 基本操作

次の操作項目に従って操作及び確認を行って下さい。
注) 12時間モードの操作については以下の10項を参照して下さい。

1) 電源ケーブルの接続

必ず本体表示電源範囲であることを確認して下さい。

2) POWERスイッチON

本体表示 (P.SAVE OFF で画面が表示されている場面) は以下ようになります。

COUNTER 000'00"

ID 00

CLOCK

現在時刻 (年、月、日、時、分、秒) が表示されます。

LOW V

点滅している場合は DC 電源電圧を上げて下さい。

3) EJECT キーを押す

カセコンが開きます。

4) カセットテープを装着する

カセットテープは開口部を下にし、透明な窓を手前にして確実に下まで注意深く押し込んで下さい。
新品のカセットテープや無記録部分のあるカセットテープは、巻始めから御使用下さい。
注) iv 頁「使用時の諸注意」、5. 「カセットテープについて」の項をお読み下さい。

5) カセコンを閉じる

カセコンがロックするまでしっかりとフタを押して下さい。不完全な場合にはテープがロックされず

カセコンが自動的に開きますので再度カセコンをしっかりと押しつけてロックして下さい。23



6) テープローディング (自動)

テープは自動的にローディングされヘッドに接触し、わずかに走行します。

COUNTER

000'00"

ID

00

CLOCK

現在時刻 (年、月、日、時、分、秒) が表示されます。